

事例2

断熱等級7の高性能と創エネ

建成ホームエネルギーを使わない家

建成ホーム(登別市)は1989年の創業当時から積極的にオール電化に取り組んできた。

今年はスマート電化住宅の新ブランド「DAN(ダン)チルタイムくつろぎの家」のモデルハウスが室蘭市八丁平に2棟完成し、第1号は6月、続く第2号は8月にそれぞれオープンした。

いずれもヒートポンプ温水暖房とエコキュートが標準仕様で、太陽光発電システムをオプションで搭載する。モデルハウス第1号には6.75kWの太陽光パネルを設置。薪ストーブも備え、自給自足で安心できる暮らしを提供する。性能にもこだわり、断熱等性能等級7を満たす。UA値は0.19W/m²K、C値は0.37cm²/m。

壁はカナタ(札幌市)のエコ100パネルにフェノールフォーム30mmを付加。天井は吹き込みグラスウール500mm。基礎断熱は内外共に押出発泡ポリスチレンフォーム60mm。土間下は基礎外周の内側に同60mmが入る。換気はダクトレスの第1種換気システムを採用した。

モデルハウスは延床面積104.34㎡の平屋(別途ロフト付)だが、ほくでんサービスの試算によると年間光熱費は約12万円(23年6月時点の電力料金単価、燃料調整費含まず)。最も高額になる1月は約2万3000円、最も低いのは5月で約2800円とな

る。

前野延康社長は、「いかにエネルギーを使わずに光熱費の安い家にするか。そのためには建物の性能を上げること、自分でエネルギーを作ること。太陽光発電を効率よく使うためにもスマート電化は適していると思う」と話す。

9月1日から「DAN」を成約した顧客に向け、先着5棟に無料でソーラーパネルを設置するキャンペーンを開催している。

前野社長は、「登別・室蘭周辺は夏場の天気が良くないというイメージがあり、地域住民から太陽光発電に向かないとの印象を持たれていた」という。

しかし、設置する住宅が徐々に増え、太陽光発電についての情報が周知されてきたことや、エネルギー価格の高騰などから創エネを志向する

ユーザーが増えたことから、現在は相談件数が増加傾向にあるそうだ。パネルに加え、蓄電池を導入した住宅もある。

また、V2Hの導入実績はないとしながらも、EVソーラーチャージャーの導入実績は増加している。今はEVを持っていない施主が、将来のためにと設置した事例もあるという。

V2Hはインシャルコストの高さが壁になっているが、前野社長は「興味を持つ人が増えていけば普及が進むのでは」と期待を寄せている。



「DAN(ダン)」モデルハウス第1号



広々としたIHシステムキッチン